

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成17年11月8日(火)5校時
場所 釜石市立甲子中学校 1年A組教室
学級 1年A組(男12名 女14名)
指導者 教諭 名須川 浩子

1 題材名 ちょっと立ち止まって

2 題材について

(1) 生徒観

落ち着いて学習に取り組むことができる学級であり、発言は多い方ではないが、どの生徒も前向きに課題に取り組んでいる。

4月に実施したNRT検査の結果では、「読むこと」の領域において説明文の細部の読み取りに誤答が目立った。

説明文については、「自然の不思議をさぐる」「暮らしを見つめる」という二つの単元で学習してきた。「自然の不思議をさぐる」では、小見出しをつけ、まとめごとに大きく内容をとらえ、要旨をまとめることを学習してきた。また、「暮らしを見つめる」では、文章の筋道や構成に即して文章の要旨をとらえ、筆者の考えを理解することを学習してきた。この二つの単元の学習を通して、生徒は要点をとらえたり要約したりしながら、何が書かれているかという文章の内容をとらえることができるようになってきた。しかし、文章の構成や展開をとらえ、筆者が自分の考えを伝えるためにどのような説明の仕方をしているか、ということは十分にとらえることはできていない。

本教材では、段落の役割に着目させながら文章の構成をとらえさせ、筆者の説明の仕方について考えさせたい。

(2) 教材観

中学校第1学年の「読むこと」の国語科の目標は、「様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる」ことである。また、「読むこと」における指導目標のうちには、「文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること」とある。

これを受けて、本教材では「文章のまとまりに着目し、構成をとらえる」「筆者のものの見方め考え方をとらえ、自分の考えを広げる」ということをねらいとして学習を進めていきたい。

「ちょっと立ち止まって」は、話題を提示し(序論)、3つの図を示しながら説明し(本論)、筆者の考えをまとめる(結論)という論の進め方をしている文章である。「物を見るときには、ちょっと立ち止まって、ほかの見方を試してみてもどうだろうか。」という筆者の主張が、3つの図を通して説明されている。このことに着目させて文章のまとまりをとらえさせるとともに、筆者の説明の仕方についても考えさせたい。

(3) 指導観

説明が図と結びついているので、生徒にとっては文章のまとまりをとらえるのに適している教材である。そこで、本教材の指導にあたっては、形式段落ごとにばらばらにして文章を提示し、図を手がかりとして形式段落を並べ替えるという作業を通して文章の構成をつかむという手法を用いることにした。

初読の段階で形式段落をばらばらにした文章を提示することになるが、序論・本論・結論という説明文の構成の既習事項を生かして、根拠を考えながら再構成していく中で筆者の論の進め方、説明の仕方をつかませたい。特に、それぞれの段落に着目させるために、再構成して文章のまとまりをつかむ段階でその根拠が説明でき

るようにしたい。

3 教材の目標

【国語への関心・意欲・態度】

物を見るときの見方や考え方について関心を持ち、すすんで物の見方や考え方を広げようとしている。

【読むこと】

文章の構成や説明の仕方などに注意して内容をとらえることができる。

筆者のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げることができる。

【言語事項】

文章の中の段落の役割を考慮することができる。

4 教材の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

筆者の考えを理解し、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。

【読むこと】

段落の役割を押さえ、文章の構成や説明の仕方をとらえている。

筆者のものの見方、考え方について自分の考えをまとめている。

【言語事項】

段落の役割をとらえている。

4 指導計画

時数	本時のねらい	主な学習活動	評価規準【方法】
1 (本時)	・文章構成をとらえ、筆者の説明の仕方の工夫を考える。	・形式段落を並べ替え、その理由を説明する。 ・段落の役割を押さえながら、文章構成をとらえる。 ・筆者の説明の工夫を考える。	(読)説明・例・意見など段落ごとの役割を押さえながら、文章構成をとらえている。 【発表、プリント】 (読)図を用いた説明等読み手にとってどのように文章がわかりやすく説明されているかをとらえている。 【発表、プリント】
2	・筆者の考えを読みとり、筆者のものの見方、考え方についての自分の考えをまとめる。	・「物を見るときには、ちょっと立ち止まって、ほかの見方をためしてみたらどうだろうか」という筆者の考えを読みとる。 ・「見方の違い」によって、新たな発見や驚きがあった自分の経験をもとに、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。 ・新出漢字を確認する。	(関)筆者のものの見方、考え方をとらえ、筆者の考えに対する自分の考えをまとめようとしている。 (読)読み取ったことをもとに要旨をまとめている。 【ノート、発表】 (読)自分の経験と筆者のものの見方、考え方を関連づけて、自分の考えをまとめている。 【ノート、発表】

5 本時の指導

(1) 目標

文章構成をとらえ、筆者が読み手に自分の考えを伝えるために、どのような説明の仕方の工夫をしているかを考えることができる。

(2) 評価

評価規準	具体の評価規準		
	A：十分満足	B：概ね満足	C：努力を要する生徒への手立て
段落の役割を押さえ、文章の構成や説明の仕方をとらえている。	序論、本論、結論という構成になっており、本論を図の説明を用いて3つに分け、1つの絵が見方によって別の絵に見える例をあげて、自分の考えを説明しているとともに、他の説明の工夫についても触れている。	序論、本論、結論という構成になっており、本論を図の説明を用いて3つに分け、1つの絵が見方によって別の絵に見える例をあげて、自分の考えを説明していることをまとめている。	板書の見直しをさせるとともに、ヒントカードを参考にし、まとめさせる。

(3) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点	評価(方法) 支援の手立て
導 入 5 分	<p>1 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>筆者はどのように文章を構成し自分の考えを伝えようとしているのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた説明文を想起させ、読み手にとってわかりやすい説明文とはどんな説明文かを問いかけることで、書き手が読み手に自分の考えを伝えるために工夫していることをとらえさせる。 ・本時は、「ちょっと立ち止まって」という文章で、学習課題を解決していくことを確認する。 	<p>本時の学習課題がわかり、解決しようという意欲をもつことができたか。 (観察)</p>
展 開	<p>2 課題解決の見通しをもつ。 (1) 文章構成をとらえるために、これまで学習してきた説明文がどのような構成になっていたかを考える。</p> <p>(2) 本論に用いられている3つの図が、それぞれ何に見えるかを考える。</p> <p>(3) 形式段落の順序がばらばらになっている文章を範読する。</p> <p>3 自力解決を図る。 (1) 序論と本論の段落をさがす。</p> <p>(2) 本論の形式段落を並び替え、その理由を学習プリント書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた説明文が、序論、本論、結論という大きなまとまりになっていたことを確認し、本時に学習する文章もまず3つに分けてみることを確認する。 ・序論、本論、結論の役割を確認する。 ・教科書は見せずに教科書に用いられている3つの図を提示し何に見えるかを聞くことで、文章に対する興味をもたせるとともに、本論はこの3つの図を用いて説明していることを確認する。 ・形式段落の順序をばらばらにして並べたプリントを配布し、文章構成を考えるために、自分で並び替えてみることを確認する。 ・新出漢字を中心に読み方を確認し、読みへの抵抗をなくさせる。 ・3つのまとまに分けるために、序論の段落、結論の段落を考えさせながら音読を聞かせる。本論については、どの図の説明をしている段落かを考えながら音読を聞かせる。 ・はじめに、序論と結論の段落を押さえさせる。 ・図を手がかりに並べ替えさせる。 ・段落と段落の関係、段落の役割に注目させる。 	<p>序論、結論の段落がわかったか。(学習プリント・挙手) 押さえられない生徒には、序論と結論の役割を再度確認させる。 本論の形式段落を並び替え、その理由を書くことができたか。(学習プリント)</p>

<p>展</p> <p>開</p> <p>4 2 分</p>	<p>4 課題について話し合う。 (1) グループで話し合う。</p> <p>(2) 段落の並べ替えとその根拠を発表し、話し合う。</p> <p>(3) 教科書の文章を音読し、形式段落の順序を確認する。</p> <p>5 課題を解決する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「女性の図」と「ドクロの図」は全体で確認し、「ルビンのつぼ」の部分について、並び替えた根拠を中心にグループで話し合わせる。 ・各図を説明している形式段落を確認し、段落相互の関係、段落の役割を根拠として押さえさせる。 ・段落の役割を確認し、段落の役割から、各図を説明している段落のうち、段落が中心段落であることを押さえさせる。 ・筆者が自分の考えを読む人に伝えるために、どのような説明の仕方をしているか、学級の他の人に説明してみよう、という観点で、学習プリントにまとめさせる。 	<p>並べ替えられない生徒には、図の説明ごとの段落番号を書いたヒントカードを渡して、その図ごとの形式段落を並べ替えさせる。</p> <p>根拠をあげて説明しているか。(発表)</p> <p>具体的評価規準 A：序論、本論、結論という構成になっており、本論を図の説明を用いて3つに分け、1つの絵が見方によって別の絵に見える例をあげて、自分の考えを説明しているとともに、他の説明の工夫についても触れている。 B：序論、本論、結論という構成になっており、本論を図の説明を用いて3つに分け、1つの絵が見方によって別の絵に見える例をあげて、自分の考えを説明していることをまとめている。 Cへの手立て 板書の見直しをさせるとともに、ヒントカードを渡してまとめさせる。</p>
<p>終末 3分</p>	<p>6 自己評価をする。</p> <p>7 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返らせる。 ・次時は、筆者のものの見方や考え方をとらえ、そのことに対する自分の考えをまとめることを伝える。 	

A 見るという働きには、思いがけない一面がある。一瞬のうちで、中心に見るものを決めたり、それを変えたりすることのできるのである。

B 左のページの図は「ルビンのつぼ」と題されたものである。よく見ると、この図から一種類の絵を見てとることができはす。白い部分を中心に見ると、優勝カップのような形をしたつぼが、つきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分はバックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみると、向き合っている二人の顔の影絵が見えてきて、白い部分はバックになってしまふ。

C このようなことは、日常生活の中でもよく経験する。今、公園の池に架かっている橋の辺りに目を向けているとき、すると、橋の向こうから一人の少女がやって来る。目はその少女の背けられる。このとき、橋や池など周辺のもはすべて、単なる背景になつてしまふ。カメラでいえば、あつという間に、少女の顔に合わせられてしまふ。カメラでいへば、あつという間に、少女の顔に合わせられてしまふ。と、その上を通過する人などは、珍しく、それに注目してしまふ。と、その上を通過する人などは、景になつてしまふ。

D わたしたちは、ひと目見たときの印象にしばられ、一面のみをとらえて、その物のすべてを知つたように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によつて見え変わる。そこで、物を見るときには、ちよつと立ち止まつて、ほかの方向を試してみても、角度を変えたり、中心に見るものを変えたり、見るときは、距離や角度を変えたりすれば、その物の他の面に気がつき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。

E 左の図の場合はどうであろうか。ちよつとすまして図の奥の方を向いた若い女性の絵と見る人もいれば、毛皮のコートにあごの絵と見る人もいるかもしれない。あるいは、ほか

F この図の場合、つぼを中心に見ているときは、見えているはずの二人の顔が見えなくなり、二人の顔を中心に見ると、一瞬のうち

G だれでも、ひと目見て即座に、何かの絵と見ているはずだが、その人は、別の絵と見ることは難しい。若い女性の絵だと、意識して捨てるためには、とりあえず、今見えている若い女性の絵を

H 左の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見える。遠ざけてみよう。すると、たちまちのうちに、この図は、遠くから見た絵に変わつてしまふ。同じ図でも、近くから見るのか、遠くから見るかによつて、全く違う絵として受け取られるのである。

I このことは、何も絵にかぎったことではない。遠くから見れば、秀麗な富士山も、近づくと、岩石の露出した荒々しい姿ばと、ひび割れてすすけた壁面のビルだったりする。

J 自分ではAだと思つていたものが、人からBとも言えることだ。指さされるほど、さうも言えらる経験は多いことだ。

筆者はどのよつに文章を構成し、自分の考えを伝えよつとしているか。

文章構成	形式段落	並べ替えた記号	段落の役割 (説明・具体例・まとめ等)

課題のまとめ

自己評価

- 1 文章構成について、理解することができた。 A D
- 2 段落の役割について、理解することができた。 A B C D
- 3 今日の授業について感想を書きなさい。

--